

# ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科  
梅本 佳子

## 教育の責任

| 科目名        | 対象<br>学年 | 受講<br>人数* | 授業<br>形態 | 必修<br>選択 | 科目区分<br>(カリキュラムにおける位置づけ)  |
|------------|----------|-----------|----------|----------|---------------------------|
| 日本語リテラシーA  | 1        | 5         | 講・演      | 必修       | 入門科目<br>(1年次で履修する教養系科目)   |
| 日本語リテラシーB  | 1        | 4         | 講・演      | 必修       | 入門科目<br>(1年次で履修する教養系科目)   |
| 留学生日本語演習 A | 1-4      | 6         | 演習       | 選択       | 総合教養<br>(1年次から履修できる教養系科目) |
| 留学生日本語演習 B | 1-4      | 13        | 演習       | 選択       | 総合教養<br>(1年次から履修できる教養系科目) |

## 教育の理念

留学生が大学において、専門的な内容を扱う講義を日本語で学べるよう、より高度な日本語を身につけることを目標とする。また、一方的な知識伝達ではなく、学生同士で相互に学び合い、学生自身の気づきにより自己修正できるよう道筋を示す。

言語知識の習得のみでなく、その背景にある文化や思想なども学習を通して学び、学業や留学生活における異文化理解の一助となるよう努める。

## 教育の方法

教師からの知識伝達のみには留まらないよう、学生相互の協働学習や、学生自身が自身やクラスメートの課題を評価する活動を授業で取り入れた。また、留学生を対象とした授業のため視点が偏る可能性があり、日本人学生の視点も意識できるよう、日本人学生を授業に招き交流を試みた。

### 【留学生日本語演習 A】

レポートや論文執筆のためのアカデミック・ライティングの基本が身につくよう、資料を使いながら論理的に自分の考えをまとめる練習をした。手順は以下のように実施した。

- ①導入として、課のテーマに沿った読解問題及び小論文のテストを実施した。小論文をテスト形式で取り組ませることで、インターネット上の意見などに影響されず、自分の持っている考えを言語化し、論理的に述べられるようにした。
- ②資料を提示し、要約させることで内容を理解し、テーマについての基本的な知識や背景を学べるようにした。また、要約した内容をその後のレポート執筆において、引用に活かして活用するようにした。
- ③ワークシートの質問項目に答えを記入する形で自分の知識や意見を確認し、テーマについて様々な角度から検討した。グループ内でワークシートの回答を発表することで、意見交換や議論を深め、思考の幅を広げた。
- ④授業で扱った資料やワークシートをもとに、教師が提示した構成に従ってミニレポートを作成した。ルーブリックをあらかじめ提示しておくことで、各段落で何を書かなければならないか明確にした。
- ⑤ルーブリックに沿ってお互いのレポートを採点評価し、それを受けてレポートを修正するように指導した。採点シートを相手に返却する際、教員が間に入り、採点者に採点の根拠を説明させるこ

とで、評価が適切かどうか確認し、正確さや公平性を補った。

なお、【日本語リテラシーA】【日本語リテラシーB】は複数教員の共通担当科目となっており、個人の教育方法と全体で共有する教育方法との線引きが明確でないため、ここでは取り上げない。

## **教育の成果 および 今後の目標**

【留学生日本語演習A】では、以下の成果が得られた。

①最初に小論文を書くことで、テーマに対する自身の知識や考えを確認でき、その後テーマについての対話や意見交換にスムーズに進めた。また、最初に自分の考えを自力で作文にまとめることで、インターネット等の情報に頼らず自分の意見を構築することにつながることができた。

②テーマについての資料を要約することで、基本知識や背景を把握し、自分の考えの不足を補ったり視野を広げたりすることができた。また、昨年度の授業では引用を苦手とする学生が多く見られたが、レポート執筆の際、あらかじめ要約をしていたことで引用のハードルが下がった。

③ワークシートでまず自身の考えを明確にしてからグループでの意見交換に進むことで、自身の意見を述べやすくなり、活動が活発化した。また、テーマやトピックについて誤解があった場合、周囲の意見を参考に軌道修正することができた。

④授業の流れにおいて、小論文執筆、資料の読解、要約、意見交換を積み重ねることで、テーマについて思考がまとまり、書くべき内容が構築された。ただし、共通の資料を使用したため、独創的な意見や新しい視点などは生まれにくかった。

⑤ループリックに沿って他者のレポートを採点することで、自身のレポートへの反映にもなり、第1稿から最終稿への修正が適切になされた。また、ループリックでの相互評価を教員が仲介することで、採点ミスや根拠のない減点、加点を避けることができ、評価の理由を明確に伝えることもできた。

昨年度の【留学生日本語演習A】および【留学生日本語演習B】の授業では、インターネットからの流用や剽窃が見られ、作文に表出された自分の意見や考えは、かなり浅く少なかった。自身の考えを掘り下げ、自分の意見と情報を区別しつつ論理を組み立てる工程が必要であると感じ、今回は上記のように授業を組み立てた。今回の試みでは、時間をかけてテーマについて思考を深め、資料の情報を取り入れながら自身の意見を構築し、論理的に記述するゴールにたどりつくことができた。後期の【留学生日本語演習B】においても、今回の流れを踏襲しつつ、改善を行うことで、より学生が自身の意見を論理的に説明できる力を身につけられるよう指導したい。

## **参考資料**

- ・学生 of 提出作文（第1稿と最終稿）
- ・提出課題
- ・最終レポート